

2月3日(月)

信仰による証

聖書朗読 ヨハネ 1:29~34

このいのちが現れ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。
Iヨハネ 1:2

2020年2月3日~2月9日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

讃美歌 502

祈り 親愛なる神様。あなた様が御子をこの世に遣わされ、御子が死んでくださったことによって、私たちにいのちが与えられたことを感謝します。あなた様の尊い恵みと御愛を、子羊を通して知る喜びを与えてくださり感謝します。イエス様こそ私たちの主であり救い主であられることを、信仰をもってすべての人に証しさせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アール・D・ラベンダー
テネシー州 ブレントウッド

御茶の水キリストの教会

2月4日(火)

主の大いなる愛

聖書朗読 ヨハネ 3：9～21

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネ 3：16

5つの「W」。ジャーナリストや様々な調査や捜査を行う人たちが、問題解決に必要な情報を集めたり、状況全体を把握するのに必要な鍵を見出したりするのに用いられる「Who (誰が)、What (何を)、When (いつ)、Where (どこで)、そして、Why (なぜ)」という5つのキーワードの頭文字を取ったものですが、これらは何世紀も前から用いられているものです。ラドヤード・キップリングの詩にはこうあります。

私には6人の忠実なしもべがいる。(彼らは私にすべてを教えてくれる。)

彼らの名は「What (何)、Why (なぜ)、When (いつ)、How (どのように)、Where (どこ)そしてWho (誰)」。

このメソッドに従ってヨハネ3章16節を読むと、そこに書かれたストーリーを読み解くことができます。神様が私たちをいかに愛しておられるかという事が分かります。誰が？ 神様。何を？ 世を愛された。それによってたった一人の愛する御子をお与えくださった。いつ？ 十字架にかかられた時(マタイ27章、マルコ15章、ルカ23章、ヨハネ19章)。どこで？ どくろという名のゴルゴダで(マルコ15：22、マタイ27：33)。なぜ？ 御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちをもつため。

讃美歌 262

祈り 親愛なる天のお父様。あなた様の御愛は、私たちの理解を遥かに超えたものです。イエス様があなた様の御子であることを信じ、信仰を持ち、そして、その信仰により、永遠のいのちを持つことができるようお導きください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

コニー・シンプキンズ・トーマス
ケンタッキー州 マウントワシントン

2月5日(水)

素晴らしい教師

聖書朗読 ヨハネ 7：14～24

そこでイエスは彼らに答えてこう言われた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。」

ヨハネ 7：16

イエス様はキリスト、主、教師、人の子、ダビデの子といった様々な呼び方をされておりましたが、最もよく用いられたのは教師という呼び方でした。イエス様が公けに宣教を始められた頃、その説かれた教えに多くの人が集まってきました。福音書には、人々が主の教えに驚いたという場面がしばしば描かれています。

何世代にもわたってユダヤ人指導者たちに教えられてきた同じ教義に飽きていた当時の人々にとって、イエス様の教えは新鮮で違ったものと思えました。イエス様はユダヤ人指導者らの教えを壊すのではなく、返って良い物とし、人々に希望をお与えになりました。そのため、群衆はイエス様のもとへと押し寄せ、その語られることばに興味を持って耳を傾けました。

ユダヤの指導者たちは、イエス様を認め支持すべきであったのですが、イエス様とその教えを決して認めませんでした。彼らはイエス様の教えに疑問を呈し、イエス様のことを、当時のユダヤ人指導者たちの下で学んだこともない者だと批判しました。けれども彼らには気付いていない点がありました。それは、イエス様は普通の人間ではなく、その教えはご自身からのものではなく、神様からのものであったということです。

讃美歌 285

祈り 私たちの父よ。イエス様が、あなた様とあなた様のみこころを、私たちがよりよく理解できるよう、分かりやすく教えてくださっていることを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

フィリップ・エイマン
サウスカロライナ州 イルモ

2月6日(木)

目が開かれて

聖書朗読 ヨハネ 9：13～23

イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」 ヨハネ 8：12

私は、周りの人たちに自分のことをよそ者扱いされたら嬉しい気はしません。けれども、今日の聖書箇所にある盲人にとってそれは日常なことだったのでしょうか。彼の周りの人達は、彼を物のように扱い気に掛ける事もなかったため、目の見えるようになった盲人が、彼らの知るその人であることさえ分からなかったのです。盲人本人は目が見えるようになったことは分かっても、周りの人は半信半疑でした。そこで彼らは、証拠が目の前にあるにも関わらず、その人をパリサイ人のところへ連れて行きました。

パリサイ人は彼になぜ目が見えるようになったのかを尋ねますが、さらに両親まで呼び出して彼らに問います。結局パリサイ人たちの間でも、周囲の人たちと同様、困惑し見解が分かれましました。けれども誰も疑う事の出来ない事実がありました。それは盲人が見えるようになったという事です。イエス様にしかお出来にならない御業です。

ヨハネ9章では、この盲目であった人のイエス様への理解が深められていく様子が描かれています。当初彼はイエス様のことを周りの人たちと同じように、ただ「イエスという名の方」として捉えています。その後「あの方は預言者です。」と言い、やがては「主なるお方」と認め、イエス様の御前に伏し拝するようになりました。

イエス様は周囲の人たちのように、この盲人であった人を物のように扱うことはなさいませんでした。それは彼にとって大いなる恵みでした。イエス様は私たちにもご自身を見上げるよう願っておられます。

讃美歌 326

祈り 恵み深きお父様。あなた様がご自身の御子を私たちのもとへ遣わされ、いのちの光を見ることが出来るようにして下さったことを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ロン・グズマン
テキサス州 サンアンジェロ

2月7日(金)

イエス様のたとえ

聖書朗読 ヨハネ 10：1～6

しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。 エペソ 2：13

私が子供の頃、祖父は羊の群れを飼っていましたが、ただ野原をさまよひ、草を鼻でつついて、皆同じ格好をして立っている羊たちを、私は何と愚かな生き物かと思ったものです。けれども、祖父が牧羊犬を使って羊らを集め、毛を刈るのを見てその見方は変わりました。羊たちの毛は、9人もの子供を持つ祖父の家族の貴重な収入源だったのです。

羊の毛を刈る巧みな技は今でも覚えています。羊を横に寝かせ、毛を地面に舞い上がらせながら、毛を刈る機械でその全身から見事に刈り取るのです。毛を刈られた羊は、春の日差しの中へ勢いよく駆け出して行ったものです。

この事は、私たちとイエス様との関わりを表しているように思えます。私たちは愚かな存在で、思い煩いや心配事を自分で背負い、イエス様が魂の牧者であられることに気付けないことがしばしばあります。イエス様は何度も「わたしは良い牧者です」と言っておられ、私たちひとりひとりを心に掛けてくださっています。それも異邦人ひとまとめではなく、それぞれ個性をもつ個々の存在として、愛してくださるのです。

イエス様の羊飼いのたとえにあるように、私たちもイエス様の御声を聞き分け、その知恵を求めご聖霊によってその導きに従わせていただけるのです。イエス様が呼び掛けてくださるとき、その御声に耳を傾け従いましょう。

讃美歌 269

祈り 親愛なるお父様。私たちはあなた様の羊です。あなた様の導きと、私たちが心に掛けてくださっていることを感謝します。いつもあなた様の御声を聞くことができるよう私たちをお導きください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ラニタ・ブラッドリー・ボイド
ケンタッキー州 フォートトーマス

2月8日(土)

必要をご存知の主

聖書朗読 ヨハネ 11:17~37

主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。

あなたは…私の道をことごとく知っておられます。詩篇 139:1、3

私は人によって様々な性格を持っていることを、とても興味深い事と思っています。社交的な人もあれば控えめな人もいます。過去をよく振り返る人もいれば、将来の可能性に目を向ける人もいます。また、人生を計画的に歩む人もいれば、流れに任せて生きる人もいます。

こうした性格に違いがあるのは、聖書に描かれた人たちも同じでした。例えばルカ10章には、もてなしの精神に溢れた働き者のマルタと、思慮深く内省的な妹マリヤが描かれています。この2人について、さらにヨハネ11章では、その家族に起こった悲しい出来事、ラザロが深刻な病に伏した時のことが記されています。彼らはイエス様を呼びに行きましたが、イエス様はすぐには来られず、そうしているうちにラザロは死んでしまったのです。2人の姉妹は悲しみに打ちひしがれていましたが、2人の姿勢は異なるものでした。イエス様がようやく来られたとき、マルタは急いでイエス様のところへ駆け寄り、思いをイエス様に伝えます。イエス様はマルタに約束のことばを語られ希望をお与えになります。一方マリヤは家で座っていましたが、このとき彼女はイエス様が遅れておられたことに気をもんでいたか、あるいは、憤りさえ抱いていたかもしれません。けれども結局、イエス様が彼女を呼ばれるとそのみもとへ行き、足元に跪き、涙ながらに自分の内にある様々な思いを主の前に注ぎ出します。このときイエス様は、彼女とともに泣いてくださいました。このように、イエス様はそれぞれの特別な必要に応えてくださるのです。

讃美歌 293

祈り 主よ。あなた様は私たちひとりひとりを深くそして完全に知っておられます。私たちの歩みにおける様々な状況で、私たちが必要とするものを備えてくださり感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジャン・ノックス

テキサス州 グランバリー

2月9日(日)

アロマセラピー

聖書朗読 ヨハネ 12:1~11

私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかくわしいキリストのかおりなのです。IIコリント 2:15

私の父は米軍の兵士だったので、私たち家族は、インディアナからニューメキシコ、ドイツ、サウスダコタ、そしてテキサスと、各地を転々としてきました。けれどもどこにいても安心感があり、家族と居る心地良さは決して変わることはありませんでした。朝はいつもコーヒーの良い香りで目を覚ましましたが、今でもそのコーヒーの芳しい香りは私に安心感を与え、自分がいかに愛されているかを思い起こさせてくれます。

マリヤはもったいないほどの高価な香油をイエス様の御足に塗りました。この香油は、その少し前に死んだラザロの身体に塗ったものであったかもしれません。この死んだと思われたラザロは、この時生きて傍に座っていました。この香油の香りが部屋中を満たしたとき、マリヤとその姉妹そしてラザロも、あの悲しみと喜びの時を思い起こしていたのではないのでしょうか。この香油の香りはマリヤとマルタそしてラザロにとって、イエス様を意味する香りだったと思われま。

物の香りが、私たちの喜びの記憶を蘇らせてくれるように、十字架上のイエス様の霊の香りは私たちにとって、希望、罪からの解放、そして、いのちの甦りを意味するものです。パウロはこう記しています。「愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおさげになりました」(エペソ5:2)。私たちの愛の歩みは、希望と罪からの解放、そして真のいのちを必要とする人々にとってアロマセラピーとなるでしょう。希望、罪からの解放、真のいのち、これらは、主が彼らにお与えになることの出来るものです。

讃美歌 II 26

祈り 親愛なるお父様。私たちが罪から解放するため、御子さえも犠牲としてくださるほど私たちが愛して下さっている事を感謝します。キリストの愛のかおりを、私たちの愛の歩みを通して周囲に放つことが出来るようお導きください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

リサ・ラングフォード

テキサス州 ラボック